

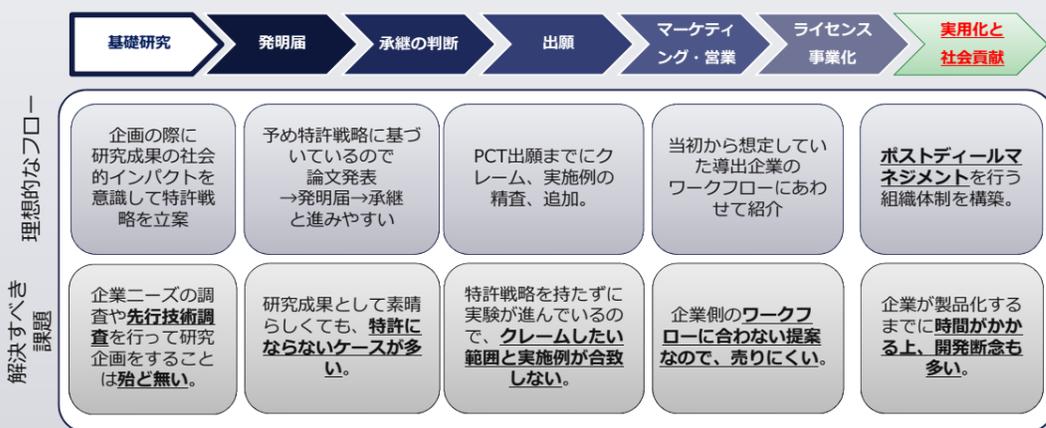
実用化のための知財戦略を伴う 研究マネジメントの提案 —URAによる研究企画コンサルテーション—

京都大学学術研究支援室 産学連携担当URA 小柳 智義
koyanagi.tomoyoshi.5c@kyoto-u.ac.jp

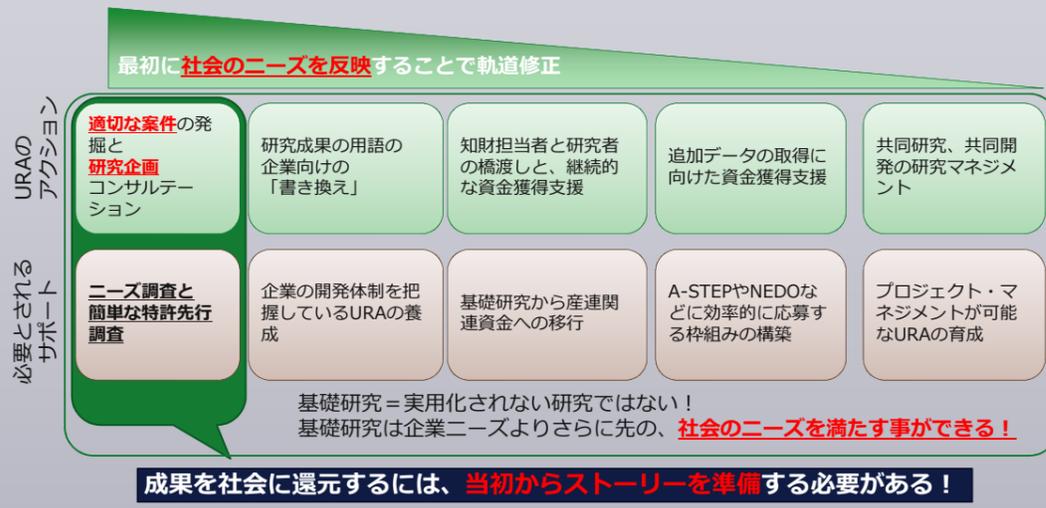
要旨

産官学連携政策の成果により、多くの大学が特許出願の仕組みを構築し、研究者も研究成果の発表時に特許出願を強く意識するようになりつつある。一方で実際に実用化に至る研究成果は数少ない。この背景にはベンチャーキャピタルの資金量や、目利き人材の不足が叫ばれているが、**大学から出てくる知財そのものが事業化にそぐわないケース**も多く見られる。発表者は産学連携担当URAとして企画段階から共同研究に携わる機会を得た。この案件ではA-STEPなどの初期の研究費から共同研究、事業化に至る**ストーリーを検討**した上で、今後の共同研究の核となる**特許の形、その後の開発計画（ビジネスプラン）**について知財専門家、URAがチームを組んで研究者と外部企業との連携をサポートしている。

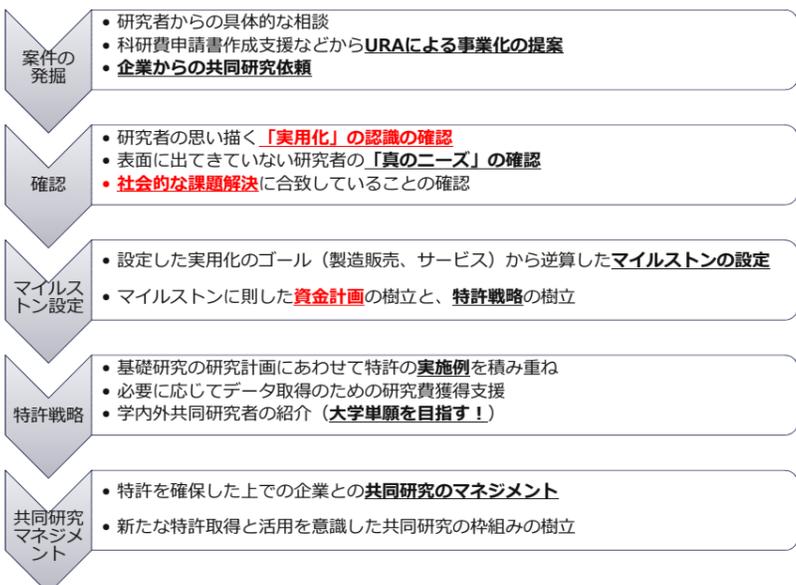
1. ライセンス/ベンチャーによる事業化活動の理想と現実



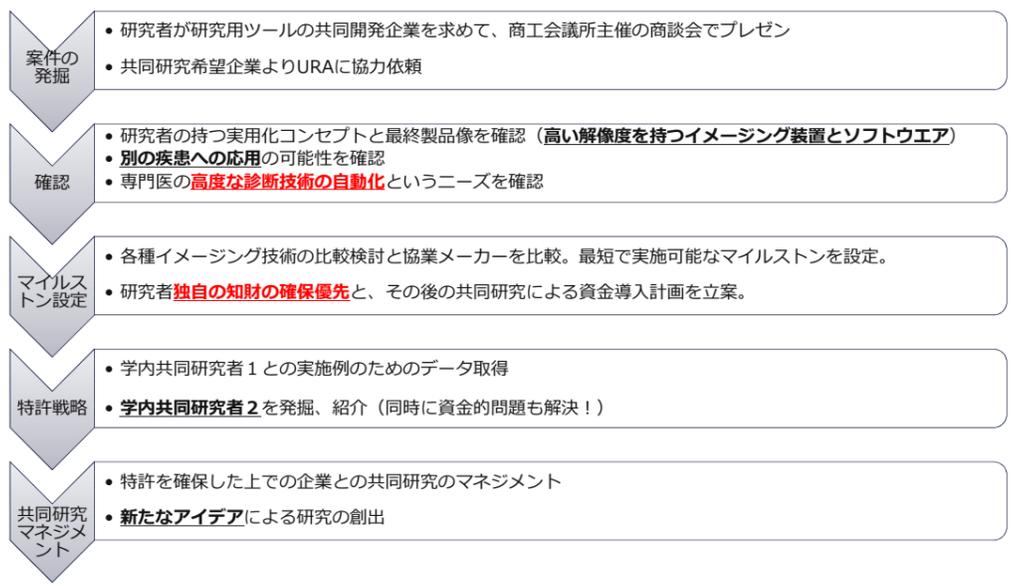
2. 現実と理想のギャップの認識と埋める



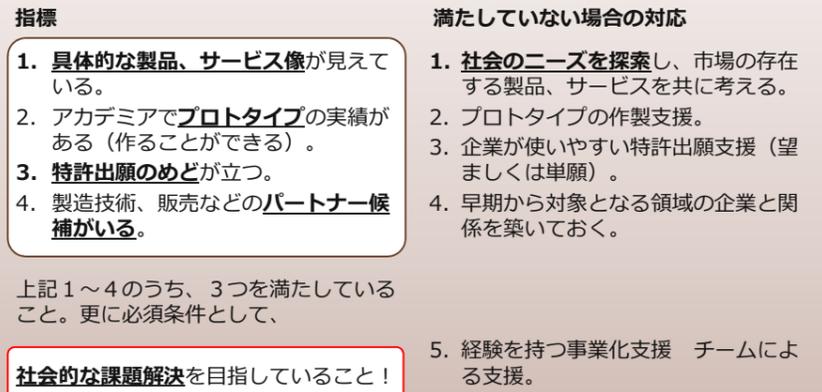
6. 産学連携に向けた研究企画コンサルテーションフロー



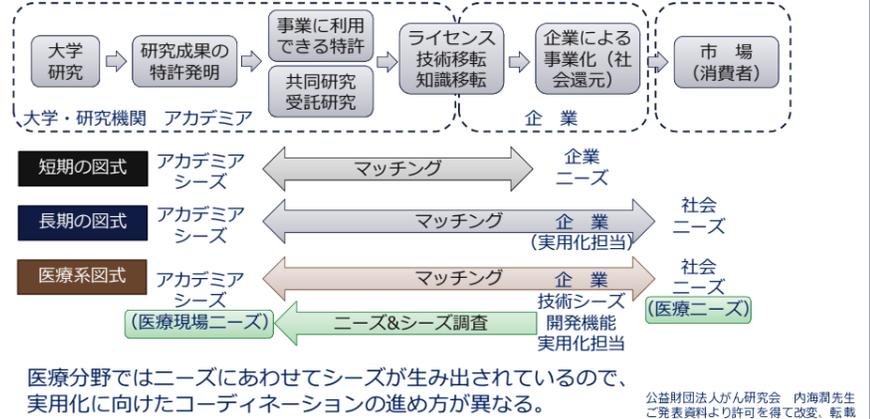
7. 研究企画コンサルテーション実施例



3. 案件選びのポイントは？



4. 視点、分野によって求められるニーズは異なる



5. 企業ニーズに合わせたライセンスにはタイミングが重要

